

ズダンブラック B 染色を用いた白血球百分率の評価方法に関する検討

佐竹 優樹

血液検査は動物への侵襲性が比較的低い一方で、多くの情報を得ることができる重要な検査である。そのうち、総白血球数とその百分率は、動物の体内で起きている炎症の程度や、その原因を探るうえで必要不可欠な検査である。

ゾウでは、単球がほかの動物と形態学的に異なることが知られており、他の動物に比べて、核が円形に近い形をしている。そのため、同様に円形の核を持つリンパ球との区別が難しいことがある。

ズダンブラック B 染色（以下、SBB 染色）は、脂肪を黒く染色する染色方法である。骨髄系細胞とリンパ球系細胞の鑑別に広く用いられるため、単球とリンパ球を区別するうえで有用であると考えられた。

そこで本研究では、ゾウの血液での実験の前段階として、傷病鳥獣保護事業にて保護された野生のホンダヌキの血液を用いて SBB 染色の使用可能性を検討した。

その結果、正常な動物の血液塗抹中でよく認められる白血球のうち、好中球と好酸球は SBB 染色に陽性、リンパ球と単球は陰性であった。この結果はゾウで既に知られている染色態度とは異なる染色態度であった。その原因としては染色手順の未熟さ、種差などの原因が考えられた。今後は、染色時間を含む染色手順の見直し、ゾウの血液での染色を行い、ゾウの白血球百分率の評価での使用可能性を検討していく所存である。